

近畿地方整備局
資料配付

配布日時	平成21年4月10日 14:00
------	---------------------

件名	国営平城宮跡歴史公園における第一次大極殿院広場の整備について
----	--------------------------------

概要	<p>国営平城宮跡歴史公園では、特別史跡であり世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つでもある平城宮跡の第一次大極殿院の広場整備を今年度行いますが、その設計、施工方法について、学識経験者で構成する委員会を通じ、検討を行いましたので、お知らせいたします。</p> <p>なお、施工方法につきましては、遺跡の確実な保存を図る手法として、「情報化施工」を導入いたします。</p> <p>参考資料1：広場の計画平面図 参考資料2：情報化施工について</p>
----	--

取り扱い	_____
------	-------

配布場所	<p>近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 奈良県政記者クラブ 奈良県文化教育記者クラブ 奈良市政記者会</p> <p>-----</p> <p>神戸海運記者クラブ、神戸民法記者クラブ、みなと記者クラブ所属で資料が必要な方は「近畿建設記者クラブの調(ｼﾌﾞﾊﾞ) (06-6942-1141内線 2811)」に問い合わせ願います。</p>
------	---

問い合わせ先	<p>国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 平城分室 副所長 西嶋 孝治 工務第二課長 山本 勇人 電話：0742-36-4327(代表)</p>
--------	--

## 国営平城宮跡歴史公園における第一次大極殿院広場の整備について

### はじめに

国営平城宮跡歴史公園は、特別史跡であり世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つでもある平城宮跡の一層の保存・活用を目的として、昨年度から事業を開始している国営公園です。

昨年12月に、公園全体の整備・管理の基本内容を定める基本計画を策定したところですが、今年度、第一次大極殿正殿の前庭となり、平城遷都1300年祭の催事会場となる第一次大極殿院広場の整備を実施することとしており（現地での実際の工事は秋以降の見込み）、その設計、施工方法について、学識経験者で構成する委員会を通じ、検討を行いましたので、お知らせいたします。

同広場については、基本計画において、第一次大極殿正殿や築地回廊など第一次大極殿院の復原建物と一体となって往時の平城宮の様子を体感・体験できる復原広場とするとの位置付けがなされております。しかしながら、平城遷都1300年祭終了後に整備を開始する予定の築地回廊などの建物復原の期間中に工事用のバックヤードとして利用する考えなどがあることから、今回の整備に当たっては、このような将来の利用を考慮した上で、遺跡の確実な保存とこの場にふさわしい景観（雰囲気）の面に配慮しつつ、以下に示した第一段階の整備を行うことにいたしました（第二段階の整備は建物復原が完了した後に行うことを想定しています）。

なお、特別史跡上の広場整備として、文化財保護法に基づく現状変更手続きを経て行います。

委員会の概要（委員長の肩書きは委員会開催当時のもの）

広場設計検討委員会（委員長：田中哲雄 東北芸術工科大学教授）

歴史・文化資産の保存・活用に配慮した広場のデザイン等の検討

地盤等施工環境検討委員会（委員長：大西有三 京都大学副学長）

埋蔵文化財を保護しつつ整備を行うために必要な広場の構造、施工の方法、管理基準の検討

### 広場整備の概要

（遺跡の確実な保存に対する配慮）

- ・施工時に遺構面を傷つけないよう、保護のための覆土を実施（原則50cm以上）  
一方、軟弱地盤が分布する範囲では、荷重に配慮した覆土の軽量化を実施。
- ・施工に当たっては、地盤の強弱に応じて、使用機械を選定。  
また、遺構保護面の掘削や過度の締め固めによる遺構面の損傷を防止する上で間違いない施工を行う方法として「情報化施工」を導入。

（景観（雰囲気）の面に対する配慮）

- ・表面仕上げについて、主に透水性のある玉砂利を用いた舗装を実施。
- ・築地回廊等の基壇部分について、盛土を行い芝で養生を行う。なお、横断部について

- は、盛土の高低差を乗り越えるための階段やスロープを設置する。
- ・排水施設について、広場部分においては暗渠排水を行う。

#### 「情報化施工」について

「情報化施工」とは、調査、設計、施工、維持管理という建設生産プロセスのうち「施工」に着目し、各プロセスから得られる電子情報を活用し、建設機械と電子・計測機器の組み合わせによる高効率・高精度な施工を実現するための手法です。

今回の広場整備における活用メリットは以下のとおりです。

##### 遺跡保存の確実化（施工品質の確保）

遺跡保存の観点から、過度の切土や転圧、局所的な荷重負荷の防止など、一般の施工現場よりも厳しく施工品質を確保する必要がある中で、誠実な履行を可能とする。

##### 遺構保護面以下の掘削防止

- ・地盤整形時のブルドーザーやグレーダーのマシンコントロールにより、遺構保護面以下の掘削を防止する。
- ・バックホウのマシンガイダンスとインターロックにより、遺構保護面以下の掘削を防止する。

##### 過度の締固めによる遺構面の損傷防止

- ・転圧ローラーの位置をトータルステーションやGPSで計測し、転圧した回数を管理することにより、過度の締固めによる遺構面の損傷を防止する。

##### 丁張りレスの出来型管理

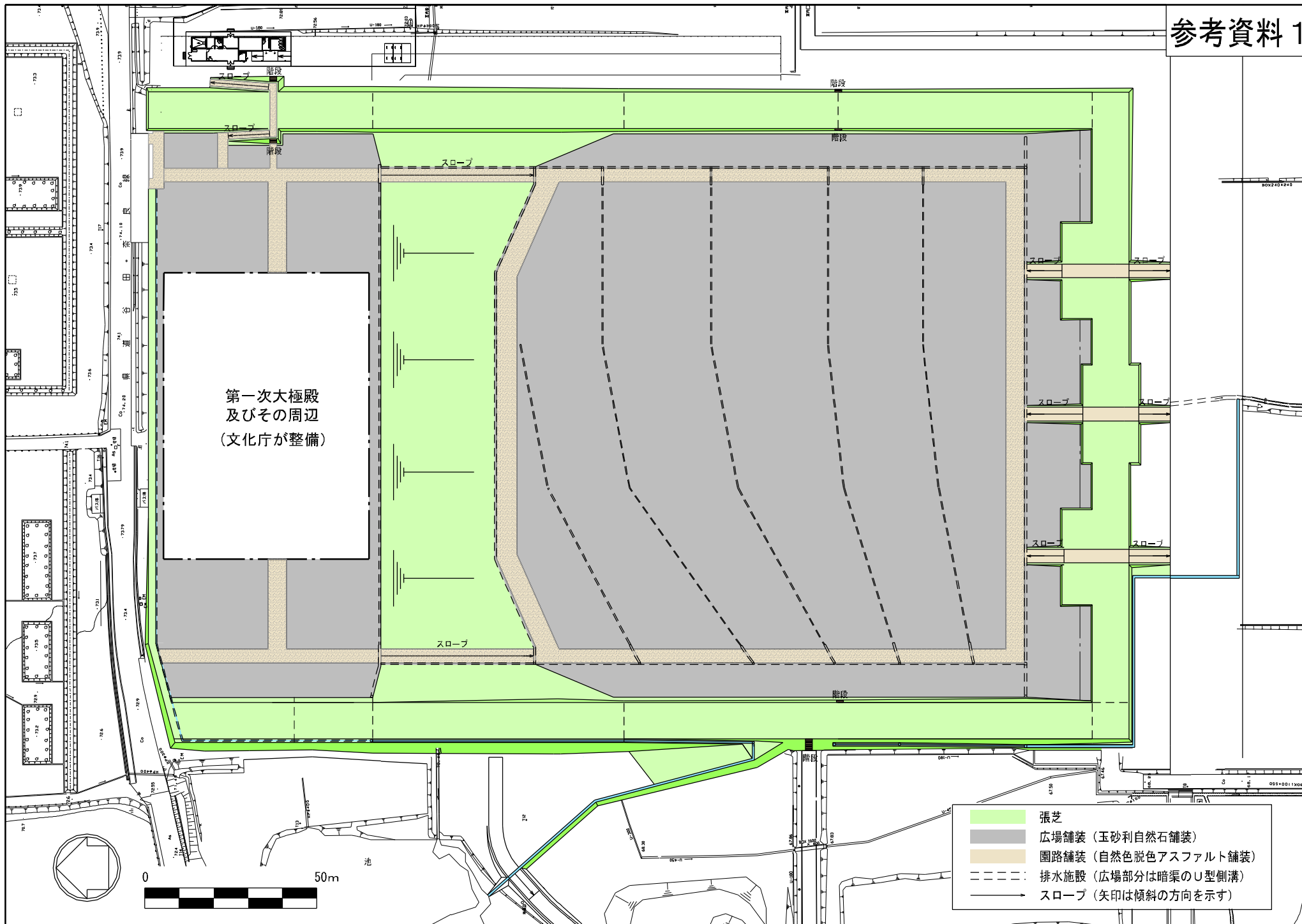
- ・トータルステーションやGPSによる出来形管理を行い、丁張りを無くすことにより、遺構に対する影響の低減を図る。

##### 施工効率の向上

概ね4ha程度と見込まれる広大な広場の整備について、限られた期間内で、遺跡を保存しつつ、高い品質で施工を行う必要がある中で、施工効率の向上を可能とする。

##### 施工記録の保存

施工期間内における施工記録を適正に保存することにより、施工後の管理に役立てることを可能とする。



マシンガイダンス (AMG) ・マシンコントロール (AMC) のしくみ MLIT

AMC: 排土板の高さ・勾配を設計面とおりに自動制御  
 AMG: 排土板の高さ・勾配と設計面との差をオペレータにガイド

GPS方式  
 TS(トータルステーション)方式  
 XYZ  
 設計面  
 現地形  
 デジタル設計データ

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

高効率・高精度な施工が実現するしくみ(AMCの例) MLIT

設計図から座標計算 測量の実施 丁張り設置 丁張りに合わせて施工 検測を繰り返して整形 品質・出来形管理

従来方法  
 情報化施工

設計図から座標計算 測量 丁張り設置 施工 検測 品質・出来形管理 完了

不要 不要 不要 不要

排土板の自動制御で往復回数も減少!

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism